

今回は作曲家シリーズに戻って、私が好きなビリー・ストレイホーンについて書いてみます。1915年生まれのストレイホーン (Bill Strayhorn) は1967に亡くなるまで、約40年間の音楽キャリアのほとんどをデューク・エリントンの片腕として過ごしました。  
<http://jazzlydian.com/mailmagazine/strayhorn.jpg>

◎ポピュラーな「Aトレイン」、「サテンドール」

ストレイホーンが作った曲で最も有名で人気があるのは「Take The A Train」でしょう。これはエリントンに憧れていたストレイホーンが、あるライブの終演後にピアノを弾いて自分を売り込み、その才能を認めたエリントンがニューヨークに呼び寄せる時「俺の自宅があるハーレムのシュガーヒルに来るには、Aトレインに乗るんだぞ」と言ったということで名前が付いた曲です。エリントン楽団の演奏を聴いて分かるように、分かりやすく魅力的なメロディを持っています。  
<https://www.youtube.com/watch?v=cb2w2m1JmCY>

もう一つ有名なのはサテン・ドールですね。エリントン楽団の管のアンサンブルも良いですが、ジョー・パス(gt)のトリオでの演奏も素晴らしいです。どんな編成でも良さを失わないのが名曲であることの典型でしょう。  
<https://www.youtube.com/watch?v=IMNlLbRrZc0>

ところが、ストレイホーンは「本領」というか、これらの2曲とは全く別の現代的美しさを持った曲をたくさん書いていて、今でも多くのミュージシャン、特にインストプレイヤーによってよく演奏されます。

◎「香るコード」

ただし、これらの曲は、ミュージシャンはもちろん、音楽理解度がある程度高いリスナーにはとても魅力的なのですが、Aトレインのように最初に聴いてカッコよさがすぐ理解できるというタイプではありません。このタイプの曲の魅力は絶妙につけられたコードの香るような美しさにあるのですが、ドミソの世界から離れたところで感じられるので、その響きの美しさが分かるまでに時間がかかるのです。

かく言う自分もそうでした。ストレイホーンのこうしたマニアック？な曲を初めて聴いたのは低音が魅力の男性シンガー、ジョニー・ハートマンがコルトレーンのカルテットをバックに歌ったLush Lifeという曲でしたが、第一印象は「不思議な曲だな」で終わりました。  
<https://www.youtube.com/watch?v=0izjSUqCcSQ>

それより、同じアルバムに入っているMy One And Only Loveの方の美しいメロディの方が耳にスムーズに入ってきました。  
<https://www.youtube.com/watch?v=cT1YTkl0-NY>

ところが、何年か経ってジャズを聴いたり歌ったりしているうちに、この曲の良さが分かってきました。いわゆるメロディアスな旋律では全くなく、このコードの響きに乗った場合に初めて良さが分かります。ピアノが弾ける方は弾いてみていただければ良さがより分かると思います。  
<http://jazzlydian.com/mailmagazine/lushlife.pdf>

ちなみに、この曲は珍しく歌詞もストレイホーンが書いています。夜の世界を酒に流されるように生きてきた自虐の心情を綴ったような歌詞なのですが、これが曲調にピタリと合っていて、陰りのある独特の魅力を醸し出しています。曲中に出てくるyouは、普通は女性を指すのですが、ストレイホーンはゲイだったと言われており、ここはどう取るか謎が残ります。  
<https://www.azlyrics.com/lyrics/ellafitzgerald/lushlife.html>

◎アドリブ不要の名曲

ほとんど知られていませんが、大変美しいLotus Blossomという曲をご紹介します。Lush Lifeと違って、メロディ自体が美しいと感じられますが、やはりストレイホーンがつけたコードによってのみ魅力を発揮します。

この録音はアドリブがありません。最初にエリントンのピアノがメロディを2コーラス奏で、次にエリントン楽団の看板アルトサクソッドだったジョニー・ホッジスが1コーラスメロディを吹いて終わります。なんと表現して良いのか言葉が見つからないくらいの美しさで、ここにはアドリブは不要ですね。  
<https://www.youtube.com/watch?v=g0oLYCdoDC8>

Lotus Blossomという同名曲があり、これはトランペッターのケニー・ドーハムが作ったものです。ストレイホーンの曲は、そのものを味わって聴くための曲であるのに対して、ケニー・ドーハムの曲の方はアドリブのための素材ですから、演奏される機会はこちらの方が多いでしょう。

最後にもう1曲、Chelsea Bridgeという曲を聴いて下さい。こちらはある程度アドリブがしやすいことから、録音は少ないですがトミー・フラナガンは曲の持つ現代的なハーモニ感覚を生かしながら、しっかりジャズ的にアドリブしています。  
<https://www.youtube.com/watch?v=xGZUD9ryrZ4>

こんな音源も出てきました。エラ・フィッツジェラルドが歌詞のついていないこの曲を、メロディもスキヤットで歌っているのです。通常やらないアプローチですが、エラはこの曲に大変惚れ込んでいたのでしょうか。  
<https://www.youtube.com/watch?v=va8PUKziXYU>

-----  
Lydian ヴォーカルライブのハイライト

・7/21(土)は山岡美香さんが3回目の登場、遠藤征志さん(p)、田辺充邦さん(gt)をバックにsweet voiceを響かせます。遠藤さんの華麗なピアノ、田辺さんのオーセンティックなギター、そして無限の持ちネタで湧かせるトーク。うっとりしてしかも笑える、とても楽しいライブです。

・7/26(水)は人気ヴォーカルのマミコ・バードさんが初登場します。マミコさんは各地のライブハウスやジャズフェスに引っ張りだこのシンガーで、作曲も手がけます。歌伴も抜群の福田重男さん(p)と古谷悠さん(b)をバックに、Lydianのリヴァーブ空間に通りの良い美声を響かせてくれそうです。

ミュージックチャージ 3,300円  
18:30開店 19:15開演

ご予約はこちら → <https://ws.formzu.net/fgen/S29023882/>